

2025年 1月 12日 《 聖 餐 式 》

主 日 礼 拝 午前8時半 / 10時半 / 夜7時

司 会 白川 達男兄

奏 楽

祈 禱 松岡 清枝姉

賛 美 新聖歌20番「主のまことはくしきかな」  
～心が疲れた時～

使徒信条

聖書朗読 使徒行伝27章13～26節

特別賛美 岸 義紘先生（サクソ）

メッセージ 「だから皆さん元気を出しなさい！」

石井 潤 牧師

聖 餐 式 賛美「主イエスの十字架の血で」

献 金 聖歌229番「おどろくばかりの」

賛 美 ～ハレルヤ アーメン～〔献金：和田姉・政枝姉〕

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 ～叫べ全地よ～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆  
《今週のお知らせ》

☆本日は聖餐式の恵みを感謝します。午後は執事会です。年間予定について等。

★今週の祈り会は、①明朝6時。②木曜午前10時半/夜7時半。③土曜夜8時。

☆木曜午後2時～、上田市大手の石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。

★来週の日曜礼拝も大切に！（司会：石井兄/祈禱：白川兄/献金：渡辺姉・千鶴子姉）

☆☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [1/12- /19] ☆

| Date | 日                        | 月                | 火              | 水                | 木            | 金                 | 土                | 日              |
|------|--------------------------|------------------|----------------|------------------|--------------|-------------------|------------------|----------------|
| 聖書箇所 | マタイ 9:1-17<br>/創世記 27-28 | :18-38<br>/29-30 | 10:1-23<br>/31 | :24-42<br>/32-33 | 11/<br>34-35 | 12:1-28<br>/36-37 | :29-50<br>/38-40 | 13:1-30<br>/41 |
| チェック | 〇/〇〇                     | 〇/〇〇             | 〇/〇            | 〇/〇〇             | 〇/〇〇         | 〇/〇〇              | 〇/〇〇〇            | 〇/〇            |

## 「だから皆さん元気を出しなさい！」

～どん底で主が隣におられることを知る～

「幾日もの間、太陽も星も見えず、暴風が激しく吹きすさぶので、ついに助かる望みは全く消えようとしていた。」 使徒行伝27章20節 [新共同訳聖書]

“…………… We finally gave up all hope of being saved.” [TEV]

昨年12月のアドベントに入る前の聖書箇所が続きとなります。使徒行伝27章。

パウロがローマ皇帝に会って、自分の救いについて、イエス・キリストとの出会いとその全人類の救いのメッセージを伝えるために、ローマに行かなければならないという強い使命を持って旅立っていきます。その船の旅は、最初は順調でしたが、次第に強い風と波に悩まされるようになります。パウロももちろんできるだけ早くローマに行って自分の使命を果たしたいと考えてはいたと思いますが、日々、神に祈り、過ごしている中で、その船の旅は大きな困難が待ち受けていることを知るようになります。秋が過ぎて冬が来ようとしている季節、雨季ということもあり、天気が荒れ狂う時期に入ることとなります。そのことは、パウロだけではなく、船の航海についての専門家の方がよほど理解していただろうと思います。しかし、パウロは船の航海についてということよりも、天地宇宙を造られた創造主である神様に仕える預言者的な存在でもありましたので、経験に基づいた答えではなく、歴史のすべて、過去も現在も未来もご支配されている神さまの御心を知ることができましたから、これから何が起ってくることを霊の目で見ていた状況でした。パウロを信頼していた百人隊長でしたが、この点では水夫たち、船の航海士たちを信頼してしまって、冬の危険な海へと帆先を向けてしまいました。

すると、彼らの船を待っていたかのようにして、北東からの激しい風が吹き下ろしてきました。空も太陽も星もすべての光を失って、彼らは前にも後ろにも進む事ができず、完全に自分自身をコントロールできなくなってしまいました。もう、なすすべがない、手の施しようがない、完全にお手上げの状況になってしまいました。希望を持つことができるすべての可能性が失われてしまいました。もう、死ぬしかない。これ以上生きることができない状況となってしまいました。

しかし、ここからが、神さまの救いの始まりです。彼らはようやくパウロの言葉を受け入れるようになりました。それまでは、自分の力で生きることができると信じていたし、そう生きる以外にないと自分を信じ切っていました。しかし、その選択肢がすべて失われたことによって、彼らの心は開かれました。しかし、パウロは一貫して神さまが希望を与えていることを信じ続けていました。その揺るがない心こそ、人々の希望の光となりました。パウロの言葉がただの「空元気」から生まれるものだったとしたら、それは全く力がなかったでしょう。パウロの言葉が確固たる生きた神への信頼であったからこそ、不安で一杯の人々に対して力となったのだと言えます。

私たちは自分の身の回り、環境によって物事を判断しがちですが、信仰者は揺るがない神の御言葉に対する絶対的な信頼によって進むべき道を見出すのです。パウロが立ったゆるがない神への信仰を私たちも今年、しっかりと握って、進んでいきたいと願います！